

平成 22 年度 事務事業事後評価調書 (平成 21 年度事業)

整理番号 8 - 28

1 事務事業の表示

: 該当

事務事業名		みどりと親しむ町民のつどい				
評価者	担当課名	産業振興課		担当係名	林務係	
	管理職	職名	課長	作成者	職名	係長
		氏名	石井弘道		氏名	辻栄浩二
事業の概要	雄武町を緑豊かな住みよいまちとして発展させるとともに、みどりに対する意識の高揚を図る。				全体計画 / 単年度繰返 (平成 20 年度 ~ 24 年度) 事業費 国・道支出 千円 地方債 千円 その他 187 千円 一般財源 3,783 千円 事業費計 3,970 千円	
実施方法	直営	民間委託		その他 ()		
第 5 期 総合計画 (前期)		登載事業	非登載事業	優先度	B	
事業の位置付け	政策目標	1 はつらつ・雄武 ~ 地域産業の振興 ~				
	基本施策	2 林業の振興				
	単位施策	2 多面的機能の発揮				
	事務事業の種類	自治事務	法定受託事務			
	その他計画・根拠等					
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(見込)	23年度(計画)	24年度(計画)
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	195 千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額 (一般財源)	292 千円	845 千円	800 千円	800 千円	800 千円
	合計	292 千円	1,040 千円	800 千円	800 千円	800 千円

122

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標 (目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)			
【抱える課題やニーズは】	自然とのふれあいや環境問題への関心が高まっている状況にある。	参加人数70人			
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	植樹や育樹の緑化活動	指標 (指標計算式 / 解説)	目標値及び実績値		
		実績人数 / 植樹祭参加人数の実績	目標年度	平成21年度	
			目標値	70 人	
			実績値	100 人	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 成果 = 目的	町民の緑化思想の高揚を図り、「みどり」の大切さを理解し、守り育てる人づくりを進めることができる。	達成度	142.9 %		
		目標年度			
		目標値			
		実績値			
内容(どのような手段で何を行ったか)					
植樹	網走西部森づくりセンター、網走開発建設部が協賛となり、生環林周辺で「第16回みどりと親しむ町民のつどい」を開催。				

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか、当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要 / 概ね必要 / 課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	自然とのふれあいや環境問題への関心が高まっている状況にあり、緑豊かな住みよいまちとして発展させるために、「みどり」に対する意識の高揚を図る植樹祭を開催する必要がある。当該事業を実施しない場合、町民の緑化思想の高揚に影響を及ぼす。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効 / 概ね有効 / 課題あり	設定した目標値の達成状況	町民の緑化思想の高揚が図られ、「みどり」の大切さを理解し、「みどり」を守り育てる人づくりに寄与した。
	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的 効率的 / 概ね効率的 / 課題あり	判断の理由	網走西部森づくりセンター、網走開発建設部と協賛して取り組むことによって、苗木の購入やスコップ等の用品費用が不要になるなど事業費の抑制が図られた。また、必要最小限の経費で実施するように努めている。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平 公平 / 概ね公平 / 公平でない	判断の理由	一般町民を対象としているので公平である。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	

4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
自然とのふれあいや環境問題への関心が高まっている状況にあり、今後も継続して緑化活動を推進していく必要があるため、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		



継続 / 現状維持		
地域住民の自然保護意識、環境保全意識の高揚を図りながら、快適環境の創造に努める事業であるので、引き続き最優先して実施すべき事業であり、当分は現状維持が適当である。		

* 展開方向の区分

継続 / 現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 終了 休止 廃止

5 その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--